

結露で濡れず、冷たさが長持ちするアイスまくらカバーで、患者の快適性と看護師の業務効率の向上を目指します

事業のポイント

自社の既存商品に使われている高機能素材と縫製技術を活かし、医療現場ニーズに対応した製品を開発。自社で企画生産できる利点を活かし、試作開発においてクイックレスポンスを徹底することで、医療現場等の関係機関との信頼関係を構築。

◆発熱時に使うアイスまくらカバーの開発

入院患者さんの発熱時等に、ゲル状の保冷剤が入ったソフトタイプのアイスまくらを使用することがあります。アイスまくらの結露取りのためタオルを巻いて使用しますが、「タオルを巻いていてもふとんや髪の毛が濡れる」「冷たさが長持ちしない」といった患者さんの意見があります。そのため、一部の現場では看護師の方が頻りにタオルやアイスまくらを交換していると聞きます。

アイスまくらカバー「E-寝!」「E-寝! sp」は、高い吸水性と拡散性を持つ素材を用いており、弊社の縫製技術を活かして開発したものです。アイスまくらの使用時に汗と結露を吸収するため、患者さんの頭部やふとんが濡れにくく、かつ保冷剤の冷たさが持続することが期待され、患者さんの快適性と現場の看護師の方の業務効率向上を目指しています。

◆「お困りごと」解決を目指すオリジナル商品の開発を医療・介護分野へ展開

バブル崩壊以降、縫製業界を取り巻く状況は厳しくなりましたが、(有)山本縫製工場は婦人服の企画・縫製を手掛けたつ、新事業としてオリジナルの自社商品開発を開始しました。これは、縫製業務の請負だけではなく、お客様が抱える「お困りごと」を解決できるようなオリジナル商品を開発することが、差別化・競争力強化に繋がると考えたからです。

これまで、分野を問わず様々なお困りごとやニーズの相談を周りから受けて、それに対応した製品開発を行ってきました。患者さんのお薬飲み忘れチェックと患者さん自身の薬の取り出しやすさ向上を目指したお薬カレンダーを、医療現場からいただいたニーズをもとに開発したことがきっかけとなり、医療・介護現場ニーズに対応した商品開発を本格的に始めました。

そのような中、香川県からの案内を受けて「かがわ健康関連製品開発フォーラム」に参画し情報収集等を行っていたところ、同フォーラムの会長である山本コーディネーター（詳細は本冊子 15 ページを参照）から、四国経済産業局等が取り組む「健幸支援産業創出プロジェクト」による医療現場のニーズ調査から出たアイスまくらに関するニーズをご紹介いただきました。ニーズの詳細をお伺いし、自社商品で主に夏場の工場、建設工事現場等で体温調整のために保冷剤を背負えるようにした保冷リュック「COOL RUCK」が応用できるのではないかと思います、アイスまくらカバーの開発に取り組みました。

試作段階では、四国経済産業局や山本コーディネーター等の支援により、試作開発にご協力いただいた香川県立中央病院に直接訪問し、仕様の確認や試作品評価等のお話を伺うことができました。現場の看護師の方とのやり取りの中で心掛けていたことは「なるべく早く試作してレスポンスをすること」です。自社の既存商品の素材を応用したことで開発期間を短縮し、約 1 ヶ月で試作品を現場に提案しました。



山本 益美 有限会社山本縫製工場
代表取締役社長

<有限会社山本縫製工場連絡先>

【本 社】〒762-0034 香川県坂出市福江町 2-5-9

TEL: 0877-46-4758 / FAX: 0877-46-4030

<http://www.csf-yamamoto.com/>



医療現場と山本コーディネーター
との試作品開発に関する打合せ

◆自社の既存商品を応用し、潜在ニーズに対応した高付加価値製品を提案

●アイスまくらカバーは、「COOL RUCK」でも用いた、高い吸水性と拡散性を持つ異なる性質の生地を三層構造を採用することで、結露や汗を吸収しつつ表面のサラサラ感を保つことができ、患者さんの快適性に繋がっています。また、カバーを袋状にして保冷剤をしっかりと包み込むことで、タオルよりも保冷剤の冷たさが持続することが期待されます。



左：保冷リュック「COOL RUCK」 右：アイスまくらカバー「E-寝！」

- 現場からのニーズとしていただいたものではありませんが、これまでの経験から入院患者の中にはアトピーや敏感肌でお悩みの方もいらっしゃるのではと考えました。そこで、最初の試作品のカバー表面を肌に優しい機能性素材を用いた四層構造にしてご提案したところ、ご使用いただいた患者さんや看護師の方から高評価をいただき、この試作品を「E-寝! sp」として製品化、上市しました。
- 現場からは、「バリエーションを増やして価格帯に幅があると購入する側として選択肢が増えてよい。」という声をいただいたため、価格の安い三層構造のアイスまくらカバーも開発し、「E-寝！」として併せて上市しました。
- 自社の既存商品を応用し、潜在的なニーズにも対応した高付加価値の試作品を最初に提案させていただいたことで、医療現場の方から品質の良さをご認識いただけたと考えています。



香川県立中央病院 古川 看護師長

- アイスまくらのタオル交換は看護師が行っておりますが、タオルはご家族が用意されたものを使うため、交換の度にタオルをしまっている場所と取り出すことを患者さんに確認させていただいています。そういった確認と交換作業の頻度が減ることで、看護や介護に必要な他の作業へより注力できる期待があります。
- 試作品は患者さんからは非常に好評でした。発熱していなくても、寝付けないために冷やしたいという方もおられ、患者さんの快眠にも繋がります。実際にご使用されると、なかなか手放しがたい様子で、個人でも「買うかもしれない」との声や、「生地が結露で濡れず、サラリとして気持ちよかった」との声が入ったお手紙もいただきました。

◆その他取組の特長、今後の展開など

- 他社製品との差別化、経営の競争力強化には、知的財産権を活用し、自社のノウハウを守りつつ、縫製技術を戦略的に活用していくことが有用だと考えています。オリジナル商品第1号が販売されてから15年以上経ちますが、知的財産の専門家に協力いただきながら、積極的に特許出願、実用新案登録出願を行っています。
- これまで、かがわ健康関連製品開発フォーラムの支援にて、「国際福祉機器展」や「香川県ものづくり企業と医療機器メーカーとの展示・商談会 in 本郷」に出展してきましたが、平成28年10月には四国経済産業局等の支援により「HOSPEX Japan 2016」にも出展しました。HOSPEX Japanでは出展ブースに約900名と大勢の方々にご来場いただき、製品紹介や新たな改良ニーズに関する意見交換ができました。
- 本製品は、一般家庭でも夏場の寝苦しさの解消等にもお役に立てると考え、インターネットで販売を開始しておりますが、ご購入いただいた方からも改良ニーズをいただいております。今後もお客様のお困りごと・ニーズから製品開発のアイデアを頂戴しながら、自社のオリジナル製品の開発に取り組んでいきたいと考えています。



HOSPEX Japan 2016 出展